

## 障がい者地域交流事業（八代・境川・芦川地区）が開催されました

12月26日、笛吹社協障がい者地域活動支援センターⅢ型「八代育美会」において、地域住民の皆様と交流を目的にした交流会を開催しました。

風の強く吹く日で、屋外のイベントとして心配はしていましたが、そんな心配を跳ねのけるかのごとく、大勢の皆様にお集まり頂き、また様々な方々の協力により賑やかな1日となりました。

この事業、八代育美会などに通所している障がい者や、八代身障福祉会の皆さんと、小学生や地域住民の皆様が同じ期間を共有して楽しむ事で「地域にも色々な人もいるんだ」と知ってもらう機会を目指しました。

また、社協八代地域として、ふれあいの集い（誰もがたいせつにされる町になって欲しい）という思いの元に始まった八和会との共催事業）と障がい者地域交流事業の合同企画とし、広く住民の参加を呼びかけました。



八代育美会の前で  
集合です。

皆さんからご挨拶を  
頂きました。





イベントのメインは餅つきです。集まった皆さんと共同作業を通じ、同じ物を食べる。また、餅つきの様な伝統的な作業から、現在の子供達とそれを共有する。それも自分の子供に限らず、地域の財産としてそれを共有することが大事な視点です。

今回は沢山の方々に協力を仰ぎました。八和会、男衆ボランティア、地域福祉推進委員、南I部地域部長、民生児童委員、育美会のご近所の皆様が、朝早くから会場の用意、もち米やお雑煮の準備などを受け持ってもらいました。

これにより沢山の子供達も参加。美味しいお餅を皆で食べる事が出来ました。



その後は、八和会と共同で抽選会や輪投げのイベントを開催。子供達の交流を楽しみました。

八和会とは、八代町在住退職教職員の会です。今回は「八代の子供たちが楽しみながら地域の人と交流して欲しい」という思いで抽選会や学童の送迎を担当してくれました。

子供も含め総勢約250名が参加、皆さんに出す餅も50キロのお米を使用。

特に寒い日だったので、きな粉やあんこの餅の他にもお雑煮も大好評。その全てが皆さんのお腹に治まりました。



また、八代育美会や一宮夢ふうせんの利用者さんや職員は、皆さんを迎えるにあたり前日から会場づくりに頑張りました。

八代育美会は障がい者が利用する施設ではありますが、「地域に或る、地域住民のための寄り合い処」として存在しています。皆さん、気軽に立ち寄って頂けると有り難く思います。

「地域は1日にして成らず」・・・こういった積み重ねが、福祉をキーワードにした新しい地域づくりになるよう、社会福祉協議会は勤めます。

障がい者地域活動支援センターふえふき  
所長 古屋まゆみ